

施主の要望に応じて、重森が昭和 33～40 年にかけて情熱を傾けた庭と茶室がある。施主に重森が呼応した豪華絢爛の庭。



石橋の奥には2列の巨石群が聳えているが、この石組は出雲から石見にかけての連山を象徴



中島の左側の石橋の奥より見た巨石群の造形は圧倒的だ。



二列の石列は前代未聞の絢爛豪華なである



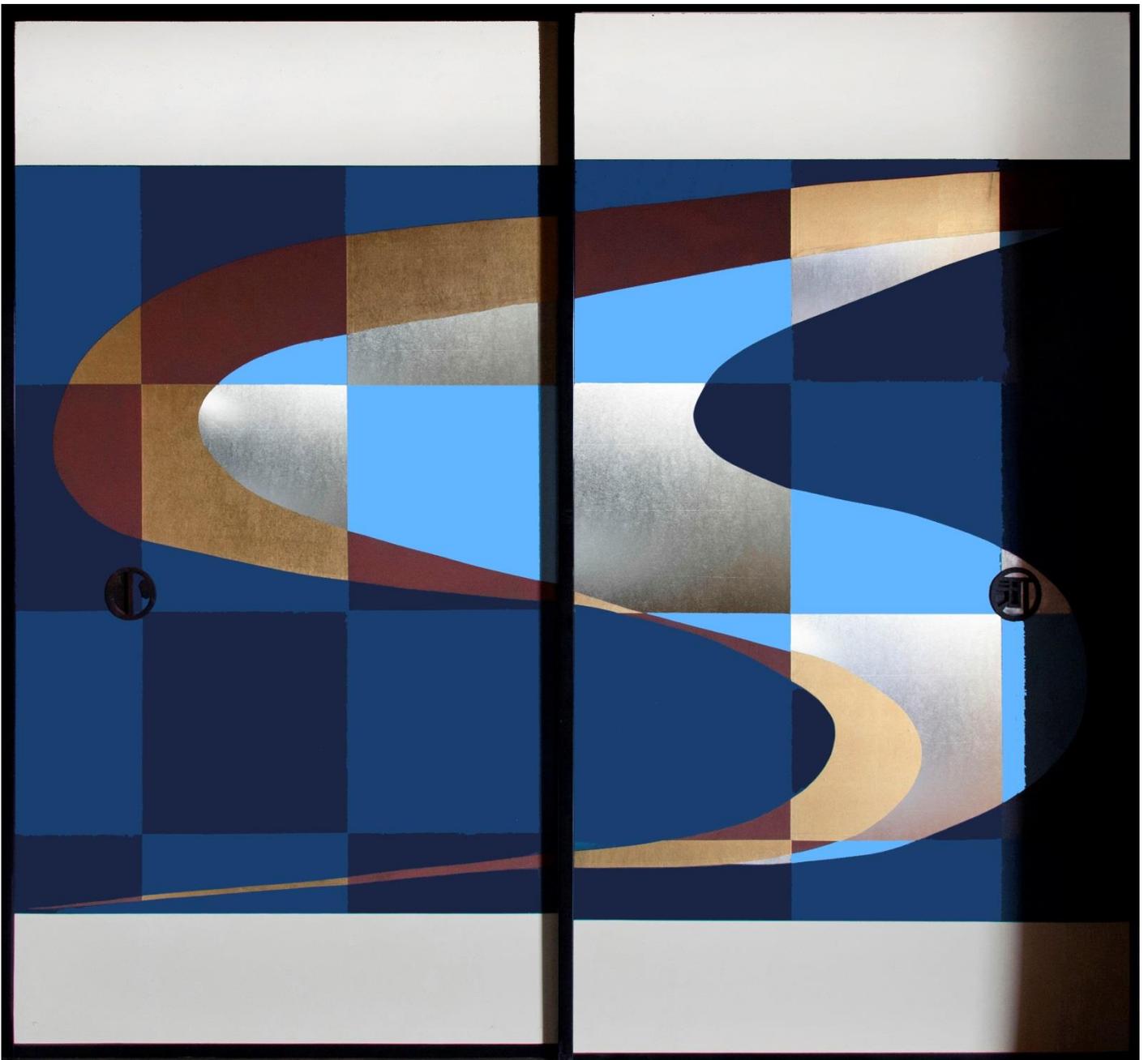
インカ風の延段と網干模様の竹垣など、すべての部分が創作である。



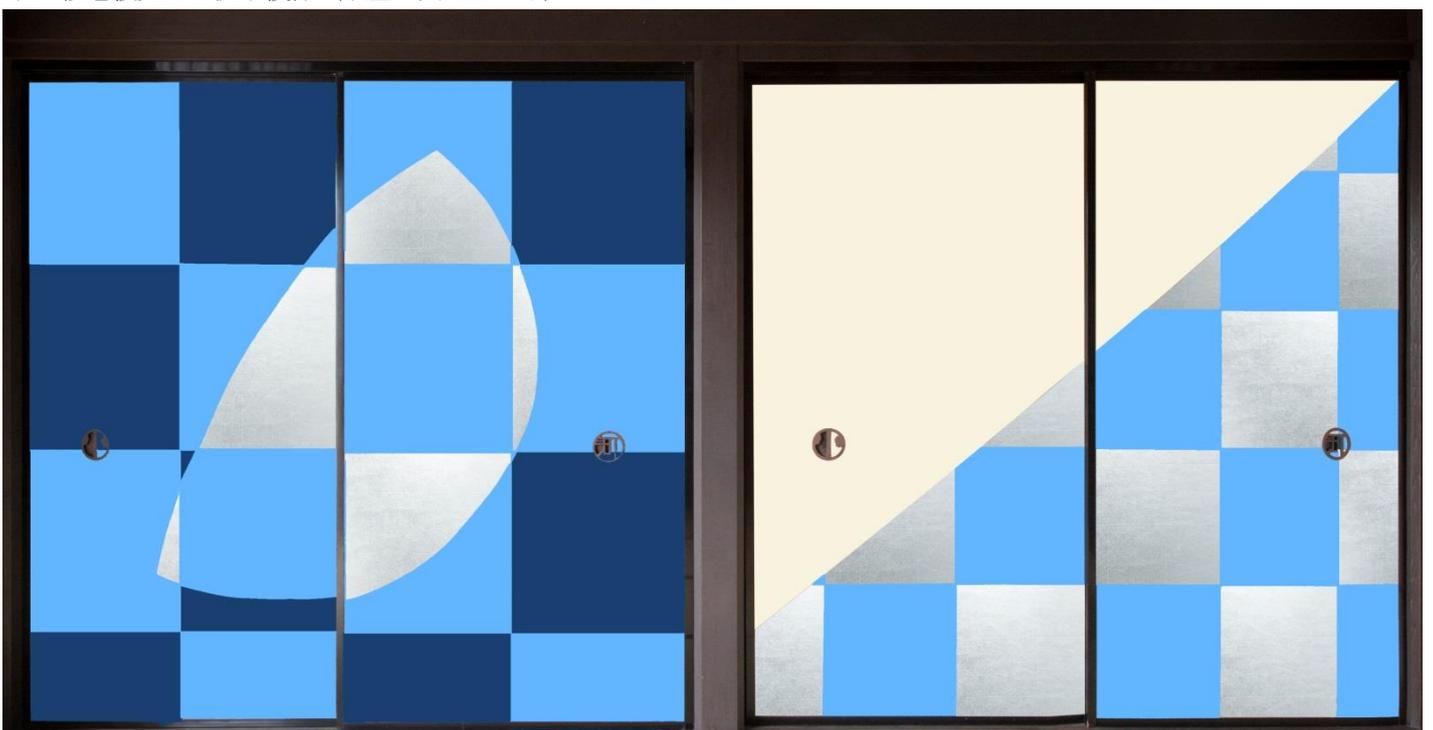
豪華絢爛の露地は類例のない唯一無二の創作作品



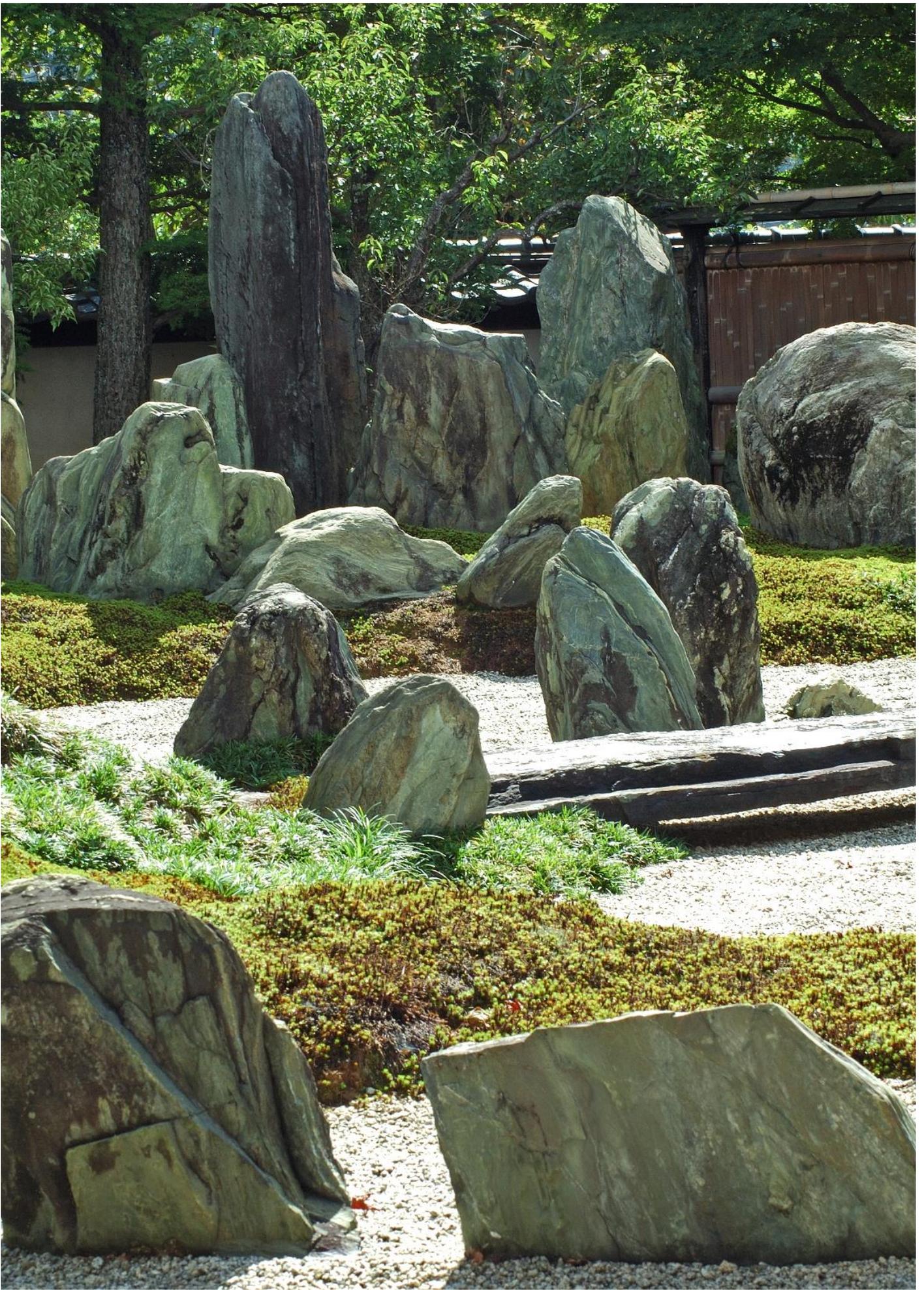
高く打たれた飛び石は重森のオリジナル、四方仏の手水鉢は貴重な文化財



私が仮想復元した流水模様（水屋に面している）



私が仮想復元した襖絵



幾重にも層を成す立体造形の美しさ